

[年度] 平成28年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 2種カブリダニ製剤利用によるイチゴのハダニ類の防除

[担当機関名] 農業試験場 環境部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

那賀地域のイチゴ栽培ではハダニ類の防除に苦慮しています。薬剤抵抗性の発達により、十分な防除効果が得られる殺ダニ剤が極めて少ないためです。このため、那賀振興局と協力し、現地イチゴ栽培ほ場において、天敵を利用したイチゴのハダニ類の防除効果を明らかにし、利用方法を確立します。

[研究の成果]

- 8～9月定植のイチゴにおいて、10～11月の開花始期を目処に、捕食能力に優れるチリカブリダニ製剤と、定着率が高いミヤコカブリダニ製剤を同時に放飼します。さらに、2月上旬頃にチリカブリダニ製剤とミヤコカブリダニ製剤、またはチリカブリダニ製剤のみを追加放飼します。
- 放飼後にハダニ類の密度が高まった場合は選択性殺ダニ剤（カブリダニ類に影響が小さい殺ダニ剤）を散布します。ハダニ類とカブリダニ類の生息数のバランスが保たれば、ハダニ類密度抑制効果は安定します（図1）。

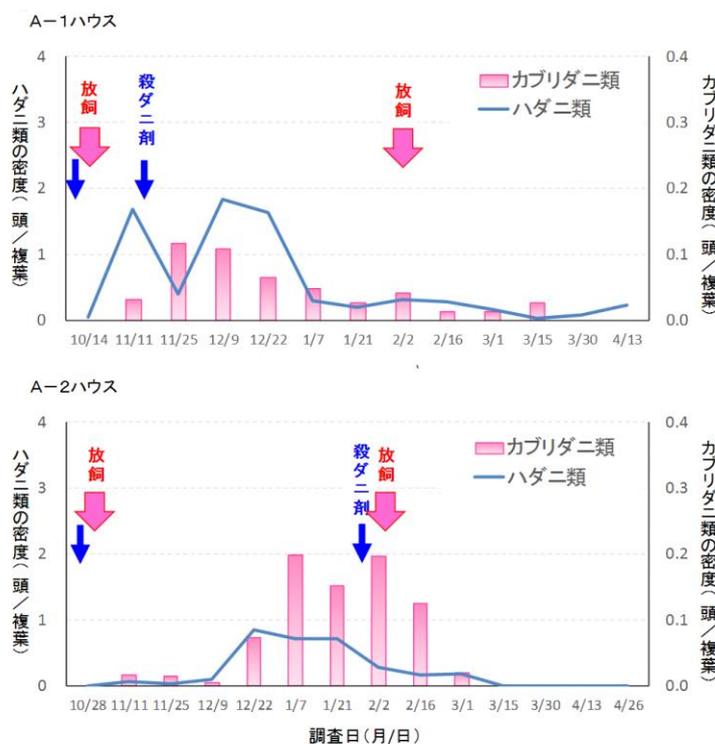


図1. イチゴ栽培ハウスにおける2種カブリダニ同時放飼によるハダニ類の防除効果(2015～2016年)

3. 慣行防除ハウス（殺ダニ剤のみで防除）と比較すると、天敵利用ハウスはハダニ類の密度が低く抑えられます（図2）。

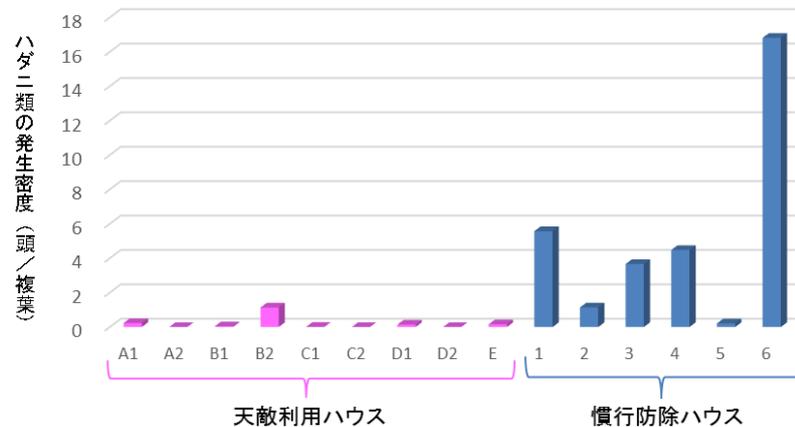


図2. 天敵利用ハウスと慣行防除ハウスにおけるハダニ類発生状況の比較(2016年4月中旬)

[成果のポイントと活用]

1. 農薬登録され、イチゴのハダニ類に使用できる2種の市販天敵製剤（チリカブリダニ製剤とミヤコカブリダニ製剤）を用います。2種のカブリダニと殺ダニ剤の併用で効果が安定します。
2. カブリダニ類への影響が大きい殺虫剤を使用しないことが重要です。
3. ハダニ類は一時的に増えることがあっても、春季まで発生が抑えられます。
4. 各振興局農林水産振興部農業水産振興課と連携して、県内全域のイチゴ生産者への普及を進めます。

[その他]

予算区分：県単（特産農作物病虫害防除）

研究期間：平成27～28年

研究担当者：井口雅裕

発表論文等：

ホームページ掲載の可否：可